

# 水無月に考えたこと



英国に来た当初、雨でも傘をさす人が少ないのに驚いた。少々の雨は濡れたまま急ぎ足。傘を持ち山高帽で闊歩の英国紳士など、Big Bang後間もないCityには見かけなかった。同じ頃、過去にミニスカートを流行らせた英国人が実は余りファッショナブルではないかとも思い始めた。真夏にコートやブーツ、真冬でもTシャツ、等。

その内、これは英国の天気に関係があるかと考えるようになった。（階級社会、当時の英国の政治・社会情勢等にも関わっていようが）

英国には日本の様な顕著な四季の変化がない。涼しい夏は、ざら。また、一日で雨や晴れ間が何度も交じる事も多い。これでは、コートや傘を持って出かけようか決め難い。

その英国の天気が近年変化してきた。夏が暑くなってきた。以前は日本の猛暑時にしか着なかった服を私はここ数年ロンドンでも着るようになった。去年のウィンブルドン、真新しいセンターコートの屋根が使われる事は殆どなかった。

今年もウィンブルドンの季節。蓋を開けたら、うすら寒い雨模様。落胆よりも、恒例のウィンブルドン日和かと諦めてしまうのは、英国生活が長くなってしまったからかもしれない。

(2011年6月22日記 | 每熊 千代子)